

論理国語 単元指導計画

日時	令和〇年〇月〇日（〇）	場所	2年〇組
クラス	2年〇組（〇〇人）	授業者	〇〇 〇〇
科目名	論理国語	単元名	具体と抽象
使用教材	『『具体』から『抽象』へ』 （森 博嗣）	使用教科書	『精選 論理国語』 数研出版
教材観	本教材は、「抽象」や「具体」について、生徒がもっている感覚を踏まえつつ、見直すことができるものである。「漠然としてわかりにくいもの」と考えがちである「抽象」という概念について、具体例を用いて説明されているため、「物事の本質を抽出する」、「物事を客観的に捉える」ためのものの見方であるということが実感をもって理解しやすい。筆者があげる抽象化のメリットは実生活にもつなげやすいものである。経験を文章にするという言語活動の中で、具体・抽象を適切に使い分けることで、物事を多角的に捉え、伝達していくことの必要性について考えさせる機会としたい。		
生徒観	落ち着いた雰囲気のある文系クラスであり、授業内でペアやグループでの活動を行う際には、積極的に仲間から学ぼうとする姿が見られる。学習内容を実生活と結びつけて理解しようという意欲があり、教材から学んだことをもとに文章を書くという活動を行った際には、多くの生徒が自らの見方・考え方の深まりを捉えようとしていくことができていた。自分の考えをはっきりともつ生徒が多いため、それを他者に伝わりやすい形で効果的に表現する力を身につけさせたい。		
指導観	本教材での学習を通じて、筆者の主張を踏まえ、「抽象的なものの見方」によって生徒自身に日常のできごとの意味付けをさせるとともに、「具体」「抽象」をうまく駆使して表現することによって、他者に伝わるイメージが広がるということに気がつかせたい。まずは、本文の中で筆者が取り上げている具体例を足がかりに、「具体」「抽象」という二つの概念を、実感をもって理解させることを意識していきたい。 言語活動として、「具体」と「抽象」の違いを踏まえて、自分が表現したい事柄をことばによって整理するとともに、他者との捉え方、表現の違いに気づかせる活動を取り入れることで、よりの確に伝わるような表現を検討する力を養わせたい。		

1 単元の目標

- (1) 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うことができる。
〔知識及び技能〕 (2)イ
- (2) 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)カ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の言語活動

本単元の教材で学んだ内容をもとに、「具体的表現」を用いて自らの体験を説明する文章を書き、「抽象的表現」を用いてタイトルをつけるとともに、グループで読み合うことを通じて、自分の表現の特徴を振り返る。
（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 A(2)イ）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 (2)イ)	① 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 (A(1)カ)	① 実生活での体験を文章にまとめる活動を通して、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全6時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
第1次 (1時間)	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○段落分けをし、本文の構成を理解する。	〔知識・技能〕①	「記述の点検」
第2次 (3時間)	○本文を読解する。	〔知識・技能〕①	「記述の確認」
第3次 (2時間)	○要点のまとめを行い、筆者の主張を確認する。 ○自分の経験を具体的に記述した上で、その文章を抽象化してタイトルをつける。 ○他者から自分の文章にタイトルをつけてもらう活動を通して気がついた点を参考に清書をする。 ○単元全体の学びを振り返る。 (本時2/2)	〔思考・判断・表現〕① 〔主体的に学習に取り組む態度〕①	「記述の分析」

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ・本文を一読し、ワークシートを用いて本文全体の構成を把握する。重要語句等の確認を行う。	・本文を学んだ後に、「具体」から「抽象」へと書き換える活動を行うことを伝え、両者の特徴を本文から読み取るように注意させる。 ・ペア活動でワークシートの答えを交流し、理解度を確かめさせる。	〔知識・技能〕① 「記述の点検」ノート ・記載内容を点検する。
2	・第1、2段落の読解。	・第1、2段落の読み取りを行い、「具体」「抽象」の意味について理解させる。 ・筆者の用いる具体例や比喻表現について考えさせる。	〔知識・技能〕① 「記述の点検」ノート ・記載内容を点検する。

3	・ 第3、4段落の読解。	・ 第3、4段落の読み取りを行い、「言葉」と「抽象的なもの」のメリット、デメリットを理解させる。	〔知識・技能〕① 「記述の点検」ノート ・ 記載内容を点検する。
4	・ 第5、6段落の読解。	・ 第5、6段落の読み取りを行い、筆者の考える「抽象的なものを見ること」のメリットをまとめさせる。	〔知識・技能〕① 「記述の点検」ノート ・ 記載内容を点検する。
5	・ 筆者の主張する「抽象的なものを見ること」のメリットを再度確認する。 ○具体的に自分の経験を文章に起こしたうえで、抽象化（タイトル付け）を行う。	・ 日常生活を抽象的に見直すことにつなげさせる。 ・ 「具体的/抽象的表現」を使い分けて表現することに意識を向けさせる。	〔思考・判断・表現〕① 「記述の分析」学習プリント ・ 相手を意識して「具体的/抽象的表現」を使い分けて表現しているか記載内容を分析する。
6 (本時)	○グループで互いに文章を読み、タイトルをつけ合う。 ・ 振り返りを記入し、自身の学びを省察する。	・ 互いが書いた文章を抽象化することを通じて、他者の視点を踏まえて自己の表現を振り返らせ、「抽象的なものの見方」についての認識を広げさせる。	〔思考・判断・表現〕① 「記述の分析」学習プリント ・ 読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしているか記載内容を分析する。 〔主体的に学習に取り組む態度〕① 「記述の分析」学習プリント ・ 再考した文章や振り返りの内容から、相手に伝わるように説明の仕方や表現の仕方を工夫できたか記載内容を分析する。

《本授業における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

「論理国語」の「内容」の〔思考力・判断力・表現力等〕「A 書くこと」に関する指導については、「内容の扱い」(1)アに「50～60 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「A 書くこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能]

[知識・技能]①の「情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使おうとしている」状況を、「自らの経験を文章にまとめる際に、具体的表現と抽象的表現の違いを理解して書き分けようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ワークシートの記述を分析して評価する。

「具体/抽象」的な表現の違いを意識して書き分けられていない状況を C と捉え、個別に声をかけて、本文でどのように語られていたかを確認させることで、一つ一つの表現における抽象度の違いに向けさせる。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現]①の「文章の構成や表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えようとしている」状況を、「具体的な経験の記述とタイトルの表現について、他者に伝わりやすいものであるか、両者の整合性はあるか等を吟味し、推敲している」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ワークシートの記述を分析して評価する。

自分の表現を推敲することができていない状況を C ととらえ、個別に声をかけて、授業中に示した表現上のポイントを踏まえて、自分の書いたものを振り返らせる。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「実生活での体験を文章にまとめる活動を通して、自分の意図が読み手に的確に伝わるよう表現を工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「読解によって得た知識や技能を活用して実体験を記述することで、自らの見方・考え方を深めることができていく」姿と捉え、ワークシートの記述を分析して評価する。

本単元を基にした気づきや学びがまとめられず、努力を要すると判断する状況を C と捉え、ワークシートの記述を参考に、単元を通して気づきや学びがどこかにないか探るよう促す。

6 学習指導案(6時間目/全6時間)

本時の目標：ア グループ活動を通して自分の表現の伝わり方や仲間の見方・考え方を学び、効果的に表現するために必要なことを自ら考え、より伝わりやすい文章を書くことにいかすことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)力

言語活動：具体的に記述した文章に、グループで抽象化したタイトルをつける活動を通して、仲間の見方・考え方を取り入れたり、自分の表現の特徴を捉え直したりする。

本時の展開：

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 5分	☐ 本時の活動内容を確認する。 ☐ 活動の注意点を確認する。	・グループで活動の流れを確認する。 ・タイトルをつける際に別の機会にも汎化できる一般性をもたせるために、適切な抽象度を考える。 ・採点する際に抽象化の方向性や、度合いが適切であったかどうかをグループで振り返ることが目的であるということを理解する。	・グループで考えたタイトルから、他の具体例が思い浮かぶかどうかという視点で、抽象化が適切にできているかを確認するように伝える。
展開① 20分	☐ グループに分かれて互いの文章を読み、タイトルをつけ合う。	・指定されたグループに分かれ、一つずつ文章を読む。 ・グループで話し合いタイトルをつける。 ・自分の文章が話題になっている間は、発言しないで仲間の意見を聞く。	・MetaMoJiClassRoom のグループ学習ページを利用できるように、書いた文章を画像で貼付させておく。 ・閲覧、記入する箇所の指示を板書する。
展開② 10分	☐ 本人がつけたタイトルとグループのものを見比べて、点数をつける。	・得点表をもとに、自分たちがつけたタイトルを比較し、自己採点をする。 ・採点の例を参考にどのように点をつけるかグループで話し合って考える。 ・二つのタイトルの違いを分析して、ものの見方、伝わり方の違いや効果的な表現についてグループで考察する。	
まとめ 15分	☐ 振り返りを記入する。	・全体で、いくつかのグループの例を参照する。 ・グループでの活動を踏まえて、自分の「具体」から「抽象」への書き換えが適切であったかを振り返り、必要に応じて文章とタイトルを作成し直す。 ・全体を通しての学びをプリントに記入する。	【目標アに対する評価規準と評価方法】 規準：自己の表現の特徴や課題を振り返り、グループ活動での気づきを活用することができている。 方法：「記述の分析」(ワークシート) 〔状況Cに対する手立て〕 ・グループ活動でどのような気づきがあったかを問いかけ振り返らせる。